

第7回 第5次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 平成22年9月21日(火) 19時～21時

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者 各審議会委員(欠席者 坂室委員、田辺委員、富田委員、西村委員、福田委員、山田委員)

アドバイザー 金沢大学 神谷教授

市側出席者

[事務局]

企画財政課長	岸 博一
企画財政課総括主幹	川口 哲治
企画財政課主幹	松田 秀治
企画財政課主任	中村 仁志

[審議事項関係課]

商工観光課長	瀬戸 和喜吉
農林水産課長	玉井 敏信
商工観光課総括主幹	和田 徹
農林水産課総括主幹	木村 義信
農林水産課主幹	高野 誠鮮
農業委員会事務局総括主幹	平野 久晴

会議傍聴者 なし

1. 開会

2. 会長あいさつ

(略)

3. 第6回会議録の確認について

4. 会議傍聴者について

5. 審議事項

(1) 「工業」「商業」「観光」「労働」について

商工観光課長より説明の後、審議

【委員】

・若い人が働く場所がないので、人口流出が止まらないのが現状。市は、雇用創出として企業誘致を進めていきたいとのことだが、具体的な案はあるのか。

【商工観光課長】

・新規では今のところサンサスのみだが、県を通じて企業誘致を図っているところ。リーマンショックの影響もあり、新規は難しい状況。
・既存の工場で、振興国への輸出が好調で増設の動きが一部に見られる。市の助成などの情報を伝えている。

【アドバイザー】

・工業、商業、観光、労働いずれにしても雇用を生み出す施策としては重要なものになる。例えば企業誘致ではどのような業種に絞りこんでいるのか、羽咋に来たらどのようなメリットがあるのか、具体的に何をすることが大事になる。
・観光においては滞在型を目指すとするが、お客さんにどうやったら滞在してもらえるか。具体的にどうしていったらいいか、議論していったらよいのでは。

【委員】

・今まで向こう 10 年のまちづくりについて審議してきたが、それらを実現するためには財政の裏付けがあってはじめて成り立つものと考えている。第 4 次総合計画は素晴らしいことが書かれている。新規に作るのではなく、これにどうやって肉付けしていくかが大事。
・総合計画のアンケートを見ると、「羽咋市が今後 10 年間でどの分野に力を入れればよいか」という質問に「雇用対策」を挙げる人が一番多いとある。その中で、「企業誘致の推進」を最も重要な施策と考える人が多数を占めている。
・若い人が働いてもらい、お金を落としてもらおう。そうやって景気が良くなって経済が活性化しないと、市の財政が成り立たない。
・近年、(株)NTN 羽咋製作所が羽咋丸善(株)の技術を見込んで羽咋市に工場進出をした。関連して、栗田 HT(株)が工場を建設した。さらに(株)NTN 羽咋製作所が新たに風車のベアリングを造る工場を建設するために土地を羽咋市に求めていた。しかし、当時の市や地権者の対応により、宝達志水町に工場を建設することになった。
・高齢者のための福祉や子育て支援も大事だが、お金がなかったら何もできない。向こう 10 年で羽咋市が何をしなければならぬか。今後企業誘致のプロジェクトをつくってしっかりと対応する必要がある。

【委員】

・観光の振興について提言する。4年後北陸新幹線が金沢開業を迎えるが、それを見据えた観光の振興が大切。①観光マップの再構築②首都圏での宣伝③文化遺産の修復と保護④町並みの美化と促進⑤食品の質と味の向上⑥宿泊施設の整備⑦イベントの開催などを通して羽咋に再び訪れたいと実感してもらおう。地域経済への波及効果を期待できるし、観光交流の拡大を図ってほしい。

【会長】

・国際摩擦があると日本の商品の不買運動などがおきたりして観光面でも山あり谷ありだが、観光が本物であれば観光客は来るのだからしっかりした投資が必要。

【委員】

・観光を考えるうえで、林業と農業を加えてグリーンツーリズムを行っていくことが必要ではないか。

・曹洞宗五祖の遺物を安置しているのは酒井町の永光寺だけ。永平寺には道元のもののみで、これだけのものは總持寺祖院や大乘寺、横浜の本山にもない。

・日蓮宗の妙成寺は、日蓮上人の孫弟子日像が開祖。

・気多大社も観光資源となる。

・このように羽咋には重要な観光資源があり、自転車で廻れる範囲にある。これらを活かした健康づくりができるグリーンツーリズムはどうか。

【委員】

・観光においても産業においても、羽咋が一番何で食べていくのかを議論する必要がある。今までも同じような施策を総合計画で練っていて、すべて減少、衰退の一途を辿っている。いかに食い止めて上昇に転じることができるか、その対策を考えなければいけない。

・観光は昔から通過型だと言われている。滞在型にするための働きかけがないのならば、つくっていくべきだ。

・課長から総合案内所がなかったり、土日の窓口がないといった話があったが、観光を考えるうえで、おかしい。このようなことを洗い出し、今後10年の施策を考えていかなければならない。

【会長】

・遊休地に関して、インターネットで検索すると全国的に研究会なりプロジェクトなりが立ちあがっていることがわかる。工場誘致、観光の問題等、重要な

課題について全国の事例も参考にしながら、本腰を入れてプロジェクトを立ち上げてやっていくことが大事ではないか。

【委員】

・市のホームページの中に宿泊施設の一覧のページはあるのか。

【商工観光課長】

・市のホームページに観光協会のページをリンクしてあり、そこに宿泊施設の一覧が見れるようになっている。

【委員】

・イベントがあった際に、羽咋市として宿泊施設をセットにしてホームページで見れるようにPRしているか。

【商工観光課長】

・市のホームページなので、観光に特化できないという事情もあり、そこまではしていないが、イベントの告知、PRはしている。

【委員】

・貴重な観光資源があるので、点と点を線で結び商品化していくことが大事ではないか。

・ホームページにしても、行政のものであろうとなかろうと、自然とリンクしてつながるような仕組みをつくっていく必要があるのではないか。

・工場誘致にしてもプロジェクトを立ち上げてしっかりやっていくことが必要だ。

【委員】

・羽咋市はイベントが多くて新聞を賑わせたりしてすごいと言われるが、聞くところによるとジェットスキーにしてもビーチバレーにしてもテントや車で宿泊したりして、市内にお金が落ちてないのではないか。

・千里浜ちびっこ駅伝に携わっているが、昔は藤岡市からも多く泊まりに来ていた。藤岡市の藤ウォークに参加するが、サービスがいいと感じる。果たして羽咋はどうだろうか。

・千里浜ちびっこ駅伝は、年々千里浜の砂浜の幅が狭くなってきているので、開催が危ぶまれているのがここ近年のこと。商工会はお金がないから協賛金をもらいに奔走している。唐戸山のイベントも同じだが、その一方で市からの補

助金も減っている。

・このような状況を見ると、宿泊とイベントとうまくリンクしていないのではないか。運営していくお金が一番大事なのでプロジェクトを立ち上げてしっかりと取り組むのも必要だと思う。

【委員】

・人口減少のことだが、奥能登はさらに深刻だろうと思って珠洲市のホームページを見たら、都市部の人をターゲットにしたと田舎暮らしを勧めるコーナーを設けてある。

・羽咋のホームページには空家情報はあがるが、どちらかというとな隣の町の人向けかなという印象を受ける。都市部には潜在的に田舎暮らしに憧れる人がいるものと思われるので、珠洲市のように実際に住んで田舎暮らしを始めることができるように PR したらどうだろうか。

【委員】

・羽咋には道の駅がないことが気になる。能登町では最近新しい道の駅ができたと聞いた。観光物産もし、観光案内もあり、体験コースも紹介されているという。

・羽咋の兵庫町にコンビニができたが、道を挟んだ向かいの閉鎖施設跡地が空いている。能登有料道路の千里浜 IC から降りてきたら、目立つところにある。そこを市か観光協会かで利用して、羽咋のお菓子などの物産を販売したり、観光案内もする場所にしたらどうか。さらに地元で採れた野菜なども販売すれば、地元の主婦も利用するだろうし、観光客も利用するだろう。

【委員】

・委員が言われたように、今までの総合計画も財源がなければすべてうまくいかないことだと思う。ぜひプロジェクトチームを組んでやってほしい。

・道の駅についてはなぜないのかずっと思っていた。志賀町のシオンのように、道の駅と温泉とタイアップしてユーフォリアでも同様のことができないか。ユーフォリアの敷地は大きくて余裕がある。経営に困っている状況。新しく作るのではなく、既存の施設を活用して道の駅ができないだろうか。昔より、観光客が来ても温かく迎えるような雰囲気になってきていてマナーも向上している。

・人口が増えないと、いくらいいものを作って売っても、来て買ってもらえないとどうしようもない。実際に、お盆に観光客が増えるので売上が3倍になる。

・人口を増やすためには企業誘致が重要だが、そのためにも10年を見通して具体的に真剣にやってほしい。

【委員】

・道の駅は賛成。場所には賛成できない。JAも商工会も市も一般市民もそれぞれに道の駅に対する思いがあり取り組もうとしている。それらをまとめていく必要がある。プロジェクトを立ち上げて何らかの方向性を出してほしい。

【企画財政課長】

・工業については、企業誘致が課題だが、新規がなかなか望めない時代だと考えている。県内でも閉鎖する工場が相次いでいる。これからは新規でなくても既存の企業を育てていくことが必要だと思っている。増設により雇用も生まれる。

・商業については、石野町界限には自然に店が進出してきている。パセオなどの市街地をどうしていくか考えていく必要がある。

・観光については、北陸新幹線が金沢開業する予定だが、金沢からいかに羽咋に来てもらえるか、どのように経済へ波及効果が見込めるか。七尾線の存在を含めて、車、レンタカー、バスなどの交通手段をどうしていくか考えていくことも大事になる。

・観光において、宿泊型、滞在型という委員から提言があった。そのように千石町や菅池町で田舎を体験してもらうというのも一つのアイデアだと思う。

・労働においては、市だけの対応はできない。財政に限りがあり、今後の10年間では“あれもこれも”はできない。社会保障など必要な経費に配分した残りをどこに重点的に投資していくかが大事になる。

・意見を出してもらい、方向性として出してもらった方がまとめやすい。

【委員】

・三年くらい前にJC主催で企業誘致などについての討論会が開催された。そこでは、新規の企業誘致も大事だが、今まで来てくれた企業にアンケートをしたことはあるのかどうか訊ねたところ、あまりしていないようだった。来てもらった企業の本人や家族がどこに満足なり、不満があったりするのか。それらを把握することで、次の企業の誘致につながるものと思われる。

【商工観光課長】

・市内の既存の企業から意見を聞くことは大切だと認識している。アンケートは過去1度だけ行っているが、現在年2回会社訪問を重ねている。その中で増設を希望する企業が出てきている。

【委員】

・会社訪問の結果をアピールできれば、羽咋市に来た企業も良さを再認識できるし、これから来たいと思っている企業にもメリットを PR できると思う。

【会長】

・企業誘致の話だが、他に研究所の誘致はどうか。ゆったりした環境が望まれるため、よいのではないか。

【委員】

・観光に力を入れたらどうかとかねてから思っていた。企業誘致の目的で有している市の土地や既存の施設を利用して、市も一緒に起業して道の駅などできないか。

・羽咋には、国立能登青少年交流の家や休暇村能登千里浜などもある。いい景観のところだから出来ているのだと思う。夏蛸が鑑賞できるというスポットも全国に向けて PR している。既存のいい施設もあるし、努力をしている。文化遺産も含めて市全体を挙げて、次世代を担う子どもたちのために今できることをやっていくべき。

【委員】

・まちがどれだけ稼ぐのかというのが大事ではないか。市民の定住にも観光客の来訪にもつながる。商店街会員数は年々減少続けていて、歯止めがかからない。まちが稼ぐことで皆が潤う。介護などの福祉も大事だが、人がいなければはじまらない。

・企業誘致の問題もお金があれば解決したかもしれない。

・どうやってまちが稼ぐのか。観光だけで食べているまちは少ない。医療では、長野の佐久市が挙げられる。

・羽咋は何で食べていけるのか未だにわからない。ベアリング関連の会社が 2 社来てくれたが、肩透かしをされたような感じだ。

・パセオなど商店街は力合わせて街灯など努力してやっている。目玉が欲しい。中心市街地が空洞化しないような施策をお願いしたい。企業が来てお金を稼ぎ、まちにお金が循環して、福祉が後についてくる。

・これまでは建設関連に予算が配分されたが、今後は商工農林水の 5 分野が鍵になるのではないか。個人的にどれか一つに絞り込んでまちづくりをしていくべきだ。

【委員】

- ・グリーンツーリズムとかスローワーク、二極化などといった言葉を最近は耳にする。それぞれのニーズのあった観光をすることが多くなってきているとのこと。グリーンツーリズムで邑知から柴垣まで自転車で旅行してもらって田舎を満喫してもらうのもよいのではないか。
- ・旅行に先日行き、山芋ばかりの料理だったけれど御馳走に感じた。心豊かな気持ちになった。羽咋は米も農産物も海産物もおいしいと親戚からも言われる。それらを活かした観光もよいのではないかと思う。

【委員】

- ・七尾市には先日大きな人口芝のサッカー場ができたと聞いている。県外からの利用者を見込み、宿泊は和倉温泉でということで、上手く工夫しているなという印象を受ける。
- ・羽咋市も、住む人、通過する人、働く人のいずれで増やすのか、いろいろな方向性で工夫することが大切だと思う。
- ・他のまちでは、同じく通過型のまちだが、B級グルメで名を上げたとのこと。
- ・羽咋市でも何かあるものを活かしながら何か見出せたらよいと思う。

【委員】

- ・人口を増やすことを重点的に考えなければならない。
- ・一つの案だが、2世帯、3世帯住宅の方の住民税を安くするというのはどうか。子供が金沢に仕事の関係で金沢に出ていってしまって家を継いでくれるか分からない状況。定年になったら必ず戻ってきてくれる工夫が必要ではないか。
- ・ある程度のエリア化は必要だと思う。文教地区だとか、商業地区だとかといった青写真は大切。学校の問題で右往左往しているのは問題。市街地から子どもたちの声が消えてしまう。
- ・新幹線が来ても今のままではどうにもならないのではないか。プロジェクトを立ち上げてやらないと、将来は町に格下げになってしまう。議員にも意識高くまちづくりに臨んでほしい。

【委員】

- ・まちづくりをこの短い時間で考えるのは難しい。まずは、なぜ羽咋にまちができたのかいろいろ考えてみる。パセオが衰退した理由はなぜか。まずは自身が反省してみる。石野町に商業地が移ったのも、余喜や邑知地区との対抗意識があったりしたこともあったからではないか。プロジェクトをつくるというのはいい提案だと思う。ぜひ取り組んでほしい。

・道の駅があったらいいという提案がこれまでもあったと思うが、実現しなかった理由があれば教えてほしい。

【企画財政課長】

・道の駅だが、行政が経営はできない。過去に民間の方から千里浜 IC を降りたところにつくりたいという話があったが、地権者との話し合いで頓挫した経緯がある。

・千里浜 IC から中川まで抜ける 4 1 5 号線が完成した。また来年度邑知大橋から邑知の郷公園に抜ける邑知 7 号線が完成する。新たな道ができるので、その周辺で妥当な場所を検討する必要がある。ただ行政だけでできることでないので、民間と力を合わせて取り組むことが求められる。

・2 世帯、3 世帯住宅への支援という委員からの提言があった。転入者が住宅を建てる場合、住まいづくり奨励金を交付しており、若い人が来たときに優遇している。今後、2 世帯、3 世帯住宅を建てた場合の助成金を多くできないか検討しているところ。

・プロジェクトという提言があったが、それぞれの専門分野ごとに部会をできないか、来年度以降の検討課題としていきたい。行政だけでなく民間の方も入って頂いて複合しながら話し合いをしていく必要があるものと考えている。

【委員】

・日頃からいつでも集えるような拠点づくりが必要ではないか。空家があるので、行政が借り上げてという形態はとれないか。そういったところから本当の意見が出てくると思う。

(2) 「農業」「林業」「水産業」について

農林水産課長より説明の後、審議

【委員】

・水産物の加工販売を検討とあるが、どのようなものか。

【農林水産課長】

・現在のところ、魚のコロッケを考えている。直販所で販売できる物と考えると、生モノが主力だが、鮮度維持が難しい。他には干物の開発などを検討している。

【会長】

・事例紹介だが、金沢で月曜日にイワシのハンバーグを出す店があるが、その時は多くのお年寄りが集まってくる。

【アドバイザー】

・近年、自由貿易地域の結成を目的とした、2国間以上の国際協定（FTA）を結ぶ国が増えてきた。先日も韓国がEUとFTAを結んでいる。日本も10年後を考えた時、今ほどの農業の保護政策が無くなる可能性がある。将来に備えてどうするかが重要。海彦、山彦計画はいいが、平地をどうするか、考える必要がある。

【委員】

・現在、市は山彦、海彦計画に取り組んでいる。
・県外で宿泊すると、能登からの旅行者だと伝えたと、“負けました”と言われる。それだけ新鮮な魚介類などで能登の知名度は高い。今後の施策として農産物、水産物などの生産、流通、販売に至るまでのプロジェクトチームが必要。市と企業と連携していくことが大事。
・北陸新幹線が開業を迎えるが、海の無い県（長野、群馬など）に積極的にアピールし、販路拡大を図る努力をしてほしい。

【委員】

・邑知の郷公園は将来的に今の状態のままか。

【農林水産課長】

・議会でも答弁したが、現在さらなる活用方法を検討している。今後は農産物の加工所や直販所（道の駅）など農業に関連した活用を考えている。

【委員】

・邑知の郷公園の土地は、元はどのような開発目的だったのか。

【農林水産課長】

・住宅団地とショッピングセンターの造成事業だった。

【委員】

・JAのはとむぎ茶は年間10万本販売計画だったが、4か月で達成した。最終的には市に50万円寄付をする。これが10年続くとどうなるか。

- ・市をどうしていくかということは職員が考えるべきだと思う。農協に着任して最初にして職員に対して「職員は自分の職場を守ってほしい」と伝えた。農協職員は全員組合員なので。同じように市の職員は全員市民だ。第4次総合計画は立派なものだが、総合計画は職員が実際には作っていないはず。
- ・農協では行政と手を携えてやっていきたいと考えている。今後いろいろな取り組みが出てくると思うが、まずは自然栽培塾をやりたい。大阪や東京から人を呼びたいと思っている。
- ・周辺人口は、宝達志水町合わせて現在3万7、8千人程度。10年後には3万人を切るものと思っている。コシヒカリ生産者価格で1万円だが、それでは採算が見込めない。はとむぎ茶を生産しなければ厳しい状況にある。
- ・農商工連携ということで、16種類のお菓子を商品開発した。展示会を実施し、さらには羽咋の土産として販売していきたい。他には石鹼や化粧水、焼酎などを商品開発中。いいものは3年かかるものなのでもうしばらくお待ち頂きたい。
- ・道の駅では商売にならないと考えている。もっと立派なものを作り上げたいかなければならない。羽咋は自然を基にしていかないと成り立たないというのが原点にある。林業と共にやっていきたいと考えている。眉丈山の頂上付近の志賀町の上棚でグループ7名で、森林環境税を使った“子ども森のめぐみ推進事業”を行っている。子どもたちに椎茸駒を植えつけたり、巣箱を作ったり、炭焼き体験やどんぐりの植林をしてもらったりしている。眉丈山の水は志賀町に流れるが、魚は羽咋まで来る。JAはくだけで考えているわけではない。
- ・今後プロジェクトチームを組んだ時に具体的な話をしたい。現在、邑知の郷公園を含め、市と連携した取り組みが進行中である。

【会長】

- ・日本は地震国で東海地方はいつ起きてもおかしくないと言われている。魚介類や食糧を安定してとり、いざとなったら東海に運ぶというような連携をとれば安定した生産に結びつくのではないかな。
- ・温暖化の影響で、北海道でおいしい米がとれると聞く。将来温暖化が進めば、現在の広島や岡山あたりで採れる農産物が、羽咋で栽培に適するようになるかもしれないので、そのような観点から特産品を考えることもできるのではないかな。

【副会長】

- ・羽咋には妙成寺や永光寺などの神社仏閣や千里浜など素晴らしいものがある。パラグアイという海のない国から今までに14名の研修生を受け入れてきた。帰国する際には、船便で荷物を3~4個送っている。2か月程度民宿に泊まり、帰

国したらはまぐり音頭を敬老会で踊っている。羽咋方式の福祉を現地で実践している。羽咋のいろんな良さを PR しているし、いいものを体験して、たくさん買って送ってほしいと伝えている。彼ら曰く、羽咋の夕日が綺麗だと。羽咋の歴史・文化を生かし永光寺や妙成寺で泊まり、講話を聞くこともある。

・委員の話でいいなと思ったのは、将来を担う羽咋市の子どもたちや県内外からの子どもたちが集まり、宿泊体験をはじめいろいろな体験をすること。炭焼き体験は余喜の子どもたちもいきいきしていた。福祉の施設でも体験やふれあいが大事。同じく、子どもたちに肌で感じ、体験できることは大切だと思う。羽咋で子どもたちに心に残る、感動できる体験をしてもらえる。それを観光、農業体験として発信していけばいいのではないか。人の後にお金がついてくることもあるだろう。

【委員】

・山彦、海彦計画は今後 10 年続いていくものであり、続けるべき計画だと思うが、神子原米に続く山彦は何かあるのか。

・耕作放棄地は 5%あるということだが、その利用方法について JA の計画はあるのか。滝町の国道沿いに耕作放棄地が続いているが、花畑にしてはどうか。夕日が見えるスポットとしては素晴らしく、花畑にしたらよい観光資源になるものと思われる。

【農林水産課長】

・山彦計画は、現在のままだと 10 年後は立ち枯れしてしまうと思う。新たな作戦が必要かと思われる。現在は、維持できており、販売も順調に推移している。基本的には神子原地区の住民が自立する方向を探っている。

・次の山彦計画としては、“自然栽培”が挙げられる。また観光とタイアップするということもある。現在、視察に年間 4 千人が訪れる。観光客を含めるとそれ以上の波及効果が考えられる。また数回来るリピーターもいる。これからは販売ルートを確立していかなければならない。

・あくまでも目標は市民の自立であり、行政の助言というのはできるだけ控えている。現在の事業の財源だが、すべて国の補助を受けている状況。

・耕作放棄地は、JA に幾分取り組んでもらっている。直接、その地の担い手農家にもお願いしている。また、農業委員にも協力賜っている。耕作放棄地の把握を毎年行っており、耕作者を探してもらったりしている。

・滝町の耕作放棄地は何年も課題になっている。これまでいろんな取組みをしてきたが、どれも長続きしていない。全体の構成を考えないと解決しないのではないかと考えている。昨年、地元の農家には耕作できるように地盤整備の協

力依頼の説明を行っているが、難しい面もある。

・耕作放棄地を花畑にしたらという委員の提言だが、検討させてもらいたい。ただし、維持管理を誰がどうしていくかといった課題がある。これまでも1~2年サイクルのプランがいくつもあったが頓挫している。大規模な土地利用となると、開発行為の検討を要する。過去にレジャーランドといった案もあったが、頓挫している。今後も時間を要する課題であると認識している。

【委員】

・滝町の耕作放棄地の問題だが、観光面で解決すべきではないか。農業では頓挫すると思われる。地権者をまとめるのは行政の力が必要だと思う。アイデアを民間に募り、協力してもらおう。これが協働の形ではないか。行政だけでは難しいと思う。

【委員】

・まちづくりは最終的にまちが財産を持つことだと思う。商工会という立場でまちが稼ぐことだと言ったが、まちづくりは教育、人づくりから始めなければならないと思っている。

・JCにいて、26年前に千里浜ちびっこ駅伝を立ち上げた。構想から実現までに半年かかった。知事室まで押しかけたが、知事はよくやったと褒めてくれた。県からは30万円もらったが嬉しかったことを覚えている。千里浜に子どもを走らせたなら、その子らの財産になるだろうと企画した。都会に出た子どもたちも楽しかったねと言ってくれる。当時県の土木など許可とることに苦労したことを記憶している。

・まちは人づくりからはじまり、その子どもたちが最終的にまちに残ってもらって、羽咋の財産になるものと思っている。

【委員】

・農協ということで、羽咋の米はどのような種類の物が人気なのか、また果物や野菜の中で特産となる物はあるのか、教えてほしい。昔、羽咋で梨畑に取り組んだことがあった。鳥取まで行って研究してきたが、金沢の梨に人気が出て先を越されてしまった経緯がある。

【委員】

・今後問題になるのは、すいかや大根、白菜などは重量野菜と言われ、衰退の可能性はある。いちじく、ブルーベリーなどは小箱で出荷できるため軽量野菜と言われて、こちらが盛んになる方向へ向かいつつある。

- ・温暖化の影響で羽咋でみかんがとれるという話もある。しかし、まだ糖度が上がるまではいかない。
- ・耕作放棄地だが、じゃがいもを作るというアイデアがあり、現在某企業と話し合いを進めているところであり、若い人も取り組みやすいのではないかと考えている。来年から作付に取りかかれるものと考えている。羽咋しかできないものを作っていきたい。
- ・国の補助では麦や大豆があるが、羽咋の低湿田では作れない。また連作ができない。稲とはと麦であれば連作が可能である。

【会長】

- ・古文書に次場遺跡の近くでどのような果物や野菜が採れたのか書かれている。羽咋の昔ながらの土壌に馴染んだものとして参考になる。
- ・江戸時代に前田家が羽咋に税金としたもののうち、森で採れる栗などを銀に換算して納めるといったことがあった。歴史民俗資料館から学ぶこともある。

6. 次回会議について

【事務局】

- ・第8回 10月4日（月） 19時から

7. その他

なし

8. 閉会